

茨城高専

地元開催の「第1回青少年のための科学の祭典」に出展

茨城高専の地元ひたちなか市は大手電機メーカーをはじめとする多くの製造企業が立地しています。昨春、この地域の次代を担う子供たちが科学技術に親しむことができる環境づくりを目指して、「第1回青少年のための科学の祭典・ひたちなか大会」実行委員会が茨城高専で開かれました。そして、半年後の11月7日(土)・8日(日)にひたちなか市総合体育館で開催された大会は、各種36のブースに2日間で3600人も多数の来館者があり、大成功を収めました。初日の開幕式では角田校長が開会の挨拶をした後、テープカットをしました。

茨城高専からは「科学の力で宝石作り」、「驚きの超伝導現象を学ぶ」など4つのテーマの出展をしましたが、どのブースも参加した子どもたちは実験や観察をとおして科学のおもしろさ、不思議さに目を輝かせていました。また、実験の説明役の学生たちは、地元市長や子供たち、保護者から多くの質問を受けて、丁寧に答えていました。

茨城高専はこれからも「青少年のための科学の祭典」や同校主催の「おもしろ科学セミナー」等をとおして、地元青少年の科学技術人材育成に貢献していきたいと考えています。



温度で変わる絵や文字を書く



ランプの光を使ってルビーを作る

福井高専

高専で本格的なクラシックコンサート!

福井高専では、昨年11月に福井県出身のプロの演奏家による本格的なクラシックコンサートを学校の体育館で開催しました。このコンサートは、福井高専が今年度取り組んでいる「女子中学生の高専進学への理解増進と高ブランド戦略による志願者確保」事業の一環として実施したもので、来場者からは、高専がより身近に感じられるようになった、高専に対するイメージが変わったとの声が多く寄せられました。

また同じく同事業の一環として、12月5日には「女子中学生と保護者のための公開講座」を、12月13日には板東久美子文部科学省生涯学習政策局長を講師に招いた特別講演会(演題:「科学技術での女性の一層の活躍をめざして」)を開催しました。公開講座は、対象を「女子」に限定したために、参加者がどれだけ集まるか心配されましたが、予想を大きく上回る参加者(女子中学生45名、保護者21名)があり、大盛況の催しとなりました。特別講演会では、板東局長から数多くのデータや企業の事例を基に、我が国の社会や企業が今後目指すべき方向性が紹介され、福井高専の女子学生、県内の大学生等がこれからの進路を考える上で参考となる講演内容に熱心に聞き入っていました。

福井高専では、今後とも高専進学への理解増進と高ブランド戦略に向けた取り組みを継続して実施し、積極的に情報発信していくことにしています。



クラシックコンサート



公開講座



特別講演会

弓削商船高専

「ものづくり日本大賞」受賞!

弓削商船高専マイコン部は過去のプログラミングコンテストにおいて最優秀賞8回と全国屈指の成績を収めていましたが、この度平成19年度第18回全国高専プログラミングコンテストにおいて文部科学大臣賞を受賞した三次元CADシステム「Beauty and the Beads」に対し、第3回ものづくり日本大賞「青少年部門」(内閣総理大臣賞)を受賞しました。



第3回ものづくり日本大賞受賞



国立高専機構理事長表彰

ものづくり日本大賞は我が国の産業・文化を支えてきた「ものづくり」を継承・発展させるために創設された内閣総理大臣表彰で2年に一度開催されています。

授賞式は平成21年7月15日(水)総理大臣官邸大ホールで行われ、弓削商船高専の受賞者である女性5名に麻生総理大臣(当時)から直接表彰状が手渡されました。また同日、国立高専の名譽を高めた功績により、国立高専機構理事長表彰もいただきました。

弓削商船高専マイコン部は、さらに昨年のマイクロソフト社が主催する国内プログラミング大会においても多くの大学が参加する中で全国2位という偉業を達成しています。これらの活躍は弓削商船高専が「日本一のプログラミング教育」を行っている証明となりました。

高専同窓会

第1回全国高専同窓会連絡会を開催

高専創立50周年を間近にし、在校生への支援、卒業生相互の情報交換・親睦、それぞれの地域振興のため、11月23日、東京・田町のキャンパス・イノベーションセンター東京にて「第1回全国高専同窓会連絡会」が、有明高専、大分高専、鹿児島高専、北九州高専、佐世保高専、都城高専、八代高専、長野高専の各同窓会長の呼び掛けにより、開催されました。

国立高専機構から、木谷雅人理事、大槻秀明事務局長が参加し、木谷理事は、基調講演「高専をめぐる最近の動向」のなかで、社会から高い評価を得ている高専の取り組みとスケールメリットを生かした高専機構全体の取り組みを紹介するとともに、同窓会同士の連絡・連携による高専支援に対し、期待感を表明しました。また、出席した全ての同窓会から近況報告と活動活性化に関する意見交換を行った後、九州地区高専の同窓会連合組織「コロボ九州」から12年間にわたる活動内容と連携効果の報告がありました。

最後に、呼び掛け人を代表して朝永憲法佐世保高専同窓会長から、今後とも同窓会同士が集まり、情報交換・連携することで同窓会活動の課題解決にあたること、来年度以降も高専同窓会連絡会の実施を行うことについて提案があり、両提案ともに満場一致で採択されました。



同窓会出席者(オブザーバー含む)

◇国立高専同窓会(37校・キャンパス)

函館高専同窓会、苫小牧高専同窓会樽前会、旭川高専同窓会、一関高専同窓会、仙台高専(名取)同窓会萩朋会、仙台高専(広瀬)同窓会、茨城高専同窓会、群馬高専同窓会、東京高専同窓会、長岡高専同窓会高志会、富山高専(本郷)同窓会ほんごう会、石川高専同窓会、福井高専同窓会進和会、長野高専同窓会、岐阜高専同窓会若鮎会、沼津高専同窓会、豊田高専同窓会、鳥羽商船高専同窓会、鈴鹿高専青峰同窓会、明石高専同窓会、和歌山高専同窓会、松江高専同窓会、広島商船高専校友会、呉高専同窓会、宇部高専同窓会宇部常磐会、阿南高専悠久同窓会、香川高専(詫間)同窓会七宝会、弓削商船高専同窓会、高知高専校友会、久留米高専同窓会久留米工業会、有明高専同窓会友倶楽部、北九州高専同窓会、佐世保高専同窓会、大分高専同窓会明愛会、都城高専同窓会深山会、鹿児島高専同窓会、沖縄高専同窓会

◇公立高専同窓会(1校)

都立高専同窓会同窓鮫洲会